

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-296540

(43) 公開日 平成11年(1999)10月29日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	F I	
G 0 6 F 17/30		G 0 6 F 15/40	3 1 0 G
13/00	3 5 4	13/00	3 5 4 A
		15/403	3 1 0 Z
			3 4 0 A

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 9 頁)

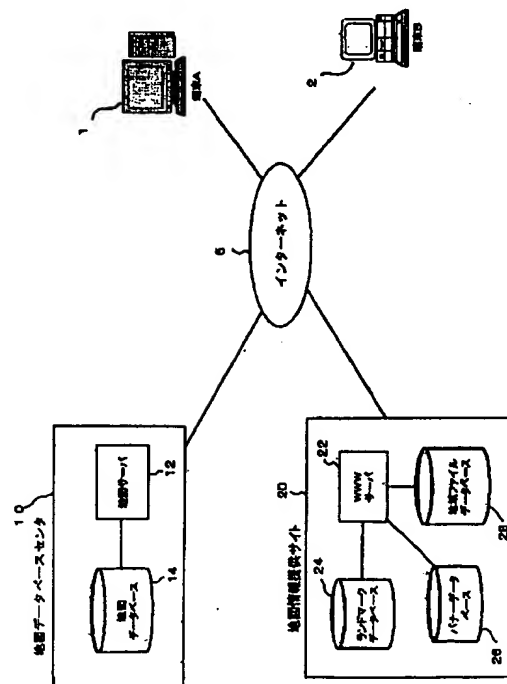
(21) 出願番号	特願平10-101211	(71) 出願人	595105515 インクリメント・ビー株式会社 東京都目黒区下目黒1丁目7番1号
(22) 出願日	平成10年(1998)4月13日	(71) 出願人	000005016 パイオニア株式会社 東京都目黒区目黒1丁目4番1号
		(72) 発明者	中野 年章 東京都目黒区下目黒一丁目7番1号 イン クリメント・ビー株式会社内
		(72) 発明者	河野 一嗣 東京都目黒区下目黒一丁目7番1号 イン クリメント・ビー株式会社内
		(74) 代理人	弁理士 石川 泰男

(54) 【発明の名称】 地図情報提供システム及び方法

(57) 【要約】

【課題】 地図情報と共に、ユーザの関心を引きつけ易く、高い宣伝効果を期待できる広告情報の表示を可能とするシステムを提供する。

【解決手段】 地図情報提供システムによれば、地理上の地域を特定するための位置情報と、当該地域と関連を有する広告情報との対応が広告情報データベースに記憶されている。ユーザが所望の場所の位置情報を端末から指定すると、地図情報送信手段は、ユーザが指定した位置情報に対応する地図情報を前記地図データベースから取得して前記端末へ送信する。また、広告情報送信手段は、前記広告情報データベースを参照して、前記位置情報に対応する広告情報を特定し、前記端末へ送信する。端末は、送信された地図情報及び広告情報を表示する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 地図データベースに蓄積された地図情報を、ネットワークを通じて端末に提供する地図情報提供システムにおいて、

地理上の地域を特定するための位置情報と、当該地域と関連を有する広告情報との対応を記憶する広告情報データベースと、

ユーザが指定した位置情報に対応する地図情報を前記地図データベースから取得して前記端末へ送信する地図情報送信手段と、

前記広告情報データベースを参照して、前記位置情報に対応する広告情報を特定し、前記端末へ送信する広告情報送信手段と、を備える地図情報提供システム。

【請求項2】 前記広告情報データベースは、前記地理上の地域を示す地域ファイルと、前記位置情報との対応関係を記憶した地域データベースを備えることを特徴とする請求項1に記載の地図情報提供システム。

【請求項3】 前記地域ファイルは対応する地域の広さに応じて複数の階層に分類され、前記広告情報データベースは前記複数の階層に属する地域ファイルごとに対応する広告情報を記憶している請求項2に記載の地図情報提供システム。

【請求項4】 前記広告情報送信手段は、前記端末上で前記広告情報を前記地図情報と同一画面上に表示することを指示する情報を前記端末へ送信する請求項1乃至3のいずれかに記載の地図情報提供システム。

【請求項5】 前記広告情報データベースに記憶される広告情報は、前記地域の産業に関連する広告情報、及び前記地域内に存在する店舗、施設に関連する広告情報のいずれかであることを特徴とする請求項1乃至4のいずれかに記載の地図情報提供システム。

【請求項6】 地図情報を蓄積した地図データベース及び広告情報を記憶する広告情報データベースを備える地図情報提供システムから、ネットワークを通じて端末へ地図情報を提供する方法において、

前記端末において、所望の場所の位置情報を指定する工程と、

ユーザが指定した位置情報に対応する地図情報を前記地図データベースから取得して前記端末へ送信する工程と、

前記広告情報データベースを参照し、前記位置情報に対応する地域と関連を有する広告情報を特定し、前記端末へ送信する工程と、

前記地図情報及び前記広告情報を受信し、前記端末上に表示する工程と、を備える方法。

【請求項7】 前記表示工程は、前記地図情報及び前記広告情報を同一画面上に表示する請求項6に記載の方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、例えばインターネットを利用してデータベースに蓄積されている地図情報及び広告情報を提供する技術に関する。

【0002】

【従来の技術】現在、インターネットプロトコルを使用したインターネット上には、WWW (World Wide Web) サーバにより世界中から多種多様な情報が提供されており、ユーザはインターネットに接続された端末を操作し、検索を行うことにより所望の情報を得ることができる。

【0003】このようなインターネットを介して提供される情報サービスは多種多様に存在するが、その一つとして地図情報検索表示サービスがある。これは、地図データベースを備え、インターネットに接続されたWWWサーバにアクセスすることにより、所望の地図情報を取得して端末上に表示することができるサービスである。具体的には、ユーザが端末から住所、地名、又は駅名、若しくは各種施設名、店舗名などを入力すると、その場所及びその周辺の地図が画像情報として端末上に表示される。よって、ユーザは表示された地図情報を参照して、目的の駅、施設などがどこにあるのかを容易に認識できる。

【0004】一方、地図情報検索サービスに限らず、インターネット上に接続された各種WWWサーバのホームページ、その他の画面には、一般的に「バナー」と呼ばれる広告情報（以下、「バナー広告」と呼ぶ。）が表示される場合がある。これは、WWWサーバを運営する企業や個人に対して、顧客（広告主）が広告料金を支払ってそのホームページに広告を表示するものであり、広告は画面上の任意の箇所に表示される。このようなバナー広告は上述の地図情報検索表示サービスにおいても行われており、例えば表示画面中の地図情報の近傍にバナー広告が表示される。

【0005】地図情報検索表示サービスにおいて行われるバナー広告表示の形態の一例は以下のようなものである。ユーザ端末上に表示される、地図情報を含む画面中には広告表示部が設けられ、あるバナー広告が表示される。ユーザがその広告に関心を示し、広告表示部をクリックすると、地図情報検索表示サービスのWWWサーバ、又は広告表示に関するWWWサーバに蓄積されている当該広告内容に関するホームページのURL (Uniform Resource Locator) が指定され、そのバナー広告の詳細を示すホームページが端末に表示される。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかし、この場合、バナー広告の内容は、ユーザが任意の検索により表示させた地図情報とは無関係である。よって、ユーザがその広告に興味を示し、広告表示部をクリックして自ら積極的にそのバナー広告のホームページを表示させない限り、宣伝広告効果はあまり期待できない。即ち、地図情報を

含む表示画面上にバナー広告を表示させる時、そのバナー広告が表示された地図情報又は地域と関連を有するものであれば、ユーザにとってもその広告を見る価値が高まるが、無関係であればユーザの関心は低くなる。

【0007】本発明は以上の点に鑑みてなされたものであり、その課題は、地図情報と共に、ユーザの関心を引きつけ易く、高い宣伝効果を期待できる広告情報の表示を可能とするシステムを提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するため、請求項1記載の発明は、地図データベースに蓄積された地図情報を、ネットワークを通じて端末に提供する地図情報提供システムにおいて、地理上の地域を特定するための位置情報と、当該地域と関連を有する広告情報との対応を記憶する広告情報データベースと、ユーザが指定した位置情報に対応する地図情報を前記地図データベースから取得して前記端末へ送信する地図情報送信手段と、前記広告情報データベースを参照して、前記位置情報に対応する広告情報を特定し、前記端末へ送信する広告情報送信手段と、を備えるように構成する。

【0009】上記のように構成された地図情報提供システムによれば、地理上の地域を特定するための位置情報と、当該地域と関連を有する広告情報との対応が広告情報データベースに記憶されている。ユーザが所望の場所の位置情報を端末から指定すると、地図情報送信手段は、ユーザが指定した位置情報に対応する地図情報を前記地図データベースから取得して前記端末へ送信する。また、広告情報送信手段は、前記広告情報データベースを参照して、前記位置情報に対応する広告情報を特定し、前記端末へ送信する。端末は、送信された地図情報及び広告情報を表示する。

【0010】従って、当該地図情報提供システムを使用してユーザが所望の地図情報を端末上に表示させると、表示された地域に関連する広告情報が自動的に表示される。従って、ユーザが関心のある地域と関連する広告を提供することができ、宣伝効果が高まることが期待できる。

【0011】請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の地図情報提供システムにおいて、前記広告情報データベースは、前記地理上の地域を示す地域ファイルと、前記位置情報との対応関係を記憶した地域データベースを備えるように構成する。従って、データベース内のデータ記憶構成が単純化され、アクセスが迅速化される。

【0012】請求項3に記載の発明は、請求項2に記載の地図情報提供システムにおいて、前記地域ファイルは対応する地域の広さに応じて複数の階層に分類され、前記広告情報データベースは前記複数の階層に属する地域ファイルごとに対応する広告情報を記憶している。従って、ユーザが選択した地域の広さに応じて適切な広告情報を提供することができる。

【0013】請求項4に記載の発明は、請求項1乃至3のいずれかに記載の地図情報提供システムにおいて、前記広告情報送信手段は、前記端末上で前記広告情報を前記地図情報と同一画面上に表示することを指示する情報を前記端末へ送信するように構成する。従って、ユーザは検索した地図情報と同時に同一画面上で関連する広告情報を見ることができる。

【0014】請求項5に記載の発明は、請求項1乃至4のいずれかに記載の地図情報提供システムにおいて、前記広告情報データベースに記憶される広告情報は、前記地域の産業に関連する広告情報、及び前記地域内に存在する店舗、施設に関連する広告情報のいずれかであるように構成する。従って、各地域ごとに有効な宣伝広告を行うことができる。

【0015】請求項6に記載の発明は、地図情報を蓄積した地図データベース及び広告情報を記憶する広告情報データベースを備える地図情報提供システムから、ネットワークを通じて端末へ地図情報を提供する方法において、前記端末において、所望の場所の位置情報を指定する工程と、ユーザが指定した位置情報に対応する地図情報を前記地図データベースから取得して前記端末へ送信する工程と、前記広告情報データベースを参照し、前記位置情報に対応する地域に関連を有する広告情報を特定し、前記端末へ送信する工程と、前記地図情報及び前記広告情報を受信し、前記端末上に表示する工程と、を備えるように構成する。

【0016】上記のように構成された方法によれば、ユーザが端末において所望の場所の位置情報を指定すると、ユーザが指定した位置情報に対応する地図情報を前記地図データベースから取得されて前記端末へ送信される。次に、前記広告情報データベースを参照して前記位置情報に対応する地域と関連を有する広告情報が特定され、前記端末へ送信される。そして、端末は前記地図情報及び前記広告情報を受信し、表示する。

【0017】従って、当該地図情報提供システムを使用してユーザが所望の地図情報を端末上に表示させると、表示された地域に関連する広告情報が自動的に表示される。従って、ユーザが関心のある地域と関連する広告を提供することができ、宣伝効果が高まることが期待できる。

【0018】請求項7に記載の発明は、請求項6に記載の方法において、前記表示工程は、前記地図情報及び前記広告情報を同一画面上に表示するように構成される。よって、従って、ユーザは検索した地図情報と同時に同一画面上で関連する広告情報を見ることができる。

【0019】

【発明の実施の形態】本発明は、地図情報提供サービスによって取得した地図情報と共にバナー広告を表示する際に、その時に表示されている地図情報の地域に関連するバナー広告を自動的に表示することを特徴とする。地

図情報提供サービスにおいてユーザが自ら指定して表示させた地域はユーザが関心を持っている地域であるので、その地域に関連を有するバナー広告を表示すれば、高い宣伝効果が期待できる。以下、図面を参照して本発明の好適な実施の形態について説明する。

#### 【0020】[1] システム構成

図1に、本発明の実施形態にかかる地図情報提供システムの概略的構成を示す。図1において、地図データベースセンタ10及び地図情報提供サイト20がインターネット5に接続されている。さらに、ユーザ端末1がインターネット5に接続されている。

【0021】ユーザ端末1は、WWWブラウザと呼ばれるアプリケーションプログラムを使用することによりWWWのサービスを受けることができる。図1の例では、ユーザ端末1はWWWブラウザを使用して地図情報提供サイト20に接続し、そのホームページを閲覧することにより地図情報の提供サービスを受けることが可能となる。

【0022】地図データベースセンタ10は、インターネット上で地図情報提供サービスを実施するためのセンタであり、地図サーバ12と地図データベース14を備える。地図データベース14は、地図上の位置情報（座標情報）、例えば、緯度及び経度の情報と、その位置情報に対応する地図情報の画像データを含んでいる。地図情報の画像データは、縮尺に応じて複数の階層構造に構成されている。即ち、日本全体の図、都道府県レベルの図というように、複数の縮尺の画像データが用意され、夫々にその画像データを特定する地域ファイル名が付されている。縮尺情報と地域ファイルとが対応付けされている。

【0023】地図サーバ12は、ユーザ端末からの指定、指示などに応じて対応する地図情報の画像データ（即ち、地域ファイル）を地図データベース14から検索、取得し、インターネット5を介してユーザ端末1に送信する。また、地図サーバ12は、WWWサーバ22からの要求に応じて地図情報の検索、送信も行う。

【0024】地図情報提供サイト20はWWWサイトである。WWWは、ハイパーテキストを使用して文字情報、画像情報、音声情報などのマルチメディア情報を提供するインターネット上の広域情報システムである。WWWサーバはWWWによりリンクされたインターネット上のサーバであり、WWWによりサービスを行うサイトをWWWサイトという。地図情報提供サイト20は、WWWサーバ22、ランドマークデータベース24、バナーデータベース26、及び地域ファイルデータベース28を備える。

【0025】ランドマークデータベース24は、ある特定の住所、駅名、ランドマーク（施設、遊技場、遊園地、店舗など）と、それらの位置情報との対応を示すデータを記憶している。よって、WWWサーバ22は、ラ

ンドマークデータベース24にアクセスすることにより、特定の位置情報からそれに対応する住所、駅名、ランドマークを特定することができる。また、逆に、特定の住所、駅名、ランドマーク名などから対応する位置情報を取得することもできる。

【0026】地域ファイルデータベース28は、各地域ファイルと位置情報（座標情報）との対応を記憶している。ここで、「地域」とは、特定の場所の地理的な区分であり、地域ファイルは大区分から小区分までの複数の階層構造に分類して定められている。図3に地域ファイルの階層的区分の例を示す。なお、図3の例は、東京都大田区蒲田駅周辺に関連する地域ファイルの区分のみを示すものである。図3において、「レベル」は各地域ファイルの階層上の位を示す。この例では、レベル1が最上位の階層であり、最も大きな区分である。レベル2、レベル3、レベル4となるに従って小さい区分に対応する。図3の例には示していないが、レベル1に属する地域ファイルは、関東の他に、関西、東北、北陸などがある。同様に、レベル2には東京、埼玉、千葉などの都道府県程度の地域ファイルが含まれ、レベル3には区、市町村程度の地域ファイルが含まれる。レベル4は最も細かい区分であり、都市名、駅名程度の地域ファイルが含まれる。この各地域ファイルに対応して前述の地図画像データが用意されている。つまり、レベル1の地域ファイル「関東」、「関西」に対応して関東、関西の地図画像が用意され、レベル3の地域ファイル「大田区」、「千代田区」に対応して大田区、千代田区の画像データが用意されている。

【0027】ここで例示した東京都大田区蒲田駅周辺に関しては、レベル1からレベル4までの全ての階層において対応する地域ファイルが定められ、地域ファイルデータベース28内にその地域ファイルと位置情報との対応が記憶されている。なお、位置情報によっては、対応するレベル4の地域ファイルが存在しない場合がある。即ち、駅、繁華街周辺などについては詳しい地図情報は用意されているが、農地、山林などでは詳細な地図情報は一般的に用意されていない。よって、このような場所を示す位置情報には対応するレベル4の（場合によってはレベル3も）地域ファイル及びその地図画像データが存在しない場合がある。

【0028】地域ファイルデータベース28には、上記の各地域ファイルに対応する位置情報（座標情報）が記憶されている。即ち、各地域ファイル名に対応する位置情報、例えば北緯〇〇度乃至〇〇度、東経〇〇度乃至〇〇度、という情報が記憶されている。よって、位置情報が決定すれば、地域ファイルデータベース28を参照することにより、その位置情報に対応する地域ファイル（即ち、地図画像データ）を特定することができる。図3の例によれば、蒲田駅付近の位置情報（北緯、東経）を指定することにより、各レベルにおける関連する地域

ファイルと対応付けされる位置情報の限定の方法としては、多角形の複数の頂点に対応する緯度及び経度により特定の地域を特定し、これをある地域ファイルと対応付けることができる。また、ある一点を中心とする半径〇〇kmの地域という方法で位置情報を特定し、これをある地域ファイルと対応付けることもできる。

【0029】バナーデータベース26は、上述の地域ファイルとそれに対応するバナー広告情報（広告情報）との対応を記憶している。バナーデータベース26中の情報の例を図4に示す。なお、図4の例も蒲田駅周辺に限定した情報を示している。図4に示すように、バナーデータベース26には、各地域ファイル、その地域ファイルのレベル、及びその地域ファイルに対して決定されたバナー広告情報の対応が記憶されている。即ち、バナーデータベース26は、ユーザにより各地域ファイルが選択され、対応する地図画像データがユーザ端末上に表示された時に、同時に表示すべきバナー広告情報を示す。図4の例で、例えば地図情報提供サービスによって、ユーザが大田区の地図情報（地域ファイル「大田区」に対応する）をユーザ端末上に表示した場合には同時に広告Bが表示され、蒲田の地図情報（地域ファイル「蒲田」に対応する）をユーザ端末1上に表示した場合には広告Dが表示される。

【0030】各地域ファイルに対応して用意されるバナー広告は、その地域と関連を有するバナー広告である。具体的には、その地域の産業などに関連するバナー広告、その地域内に存在する店舗、施設などに関連するバナー広告などが挙げられる。各地域の産業などに関連するバナー広告としては、その地域の名産品、その地域の主要産業による生産物、サービスなどが含まれ、例えば地域ファイル「青森」に対してリンゴのバナー広告、地域ファイル「札幌」に対してラーメン店のバナー広告などが挙げられる。また、その地域内に存在する店舗、施設に関連するバナー広告としては、その地域内にある飲食店、百貨店、遊技施設、スポーツ施設などのバナー広告が挙げられる。

【0031】本実施形態においては、各地域ファイルに対して対応付けされるバナー広告は一つであるとし、バナーデータベース26中に記憶される地域ファイル名とバナー広告とは1対1に対応することとする。こうすることにより、ユーザがある位置情報を指定し、対応する地域ファイルが特定されると、その地域ファイルの地図情報と共に表示されるバナー広告が一つに決定される。よって、WWWサーバ22による処理を単純化することができる。

【0032】但し、各地域ファイルに対応する広告を複数用意し、時間帯に応じて変更して表示するようにすることもできる。例えば、ある地域ファイルに対して、ある百貨店の営業時間帯はその百貨店のバナー広告を表示

し、その営業終了後の時間帯は別の飲食店の広告を表示するようにデータベース内の対応を決定することができる。また、同様に、季節、曜日などに応じて一つの地域ファイルに対応するバナー広告を変更することもできる。バナーデータベース26内の地域ファイルとバナー広告との対応付けは、当該地図情報提供サービスの提供企業が広告主の要望に応じて決定する。また、地図情報提供サービスにおいてユーザ端末に表示される画面中に複数の広告表示部を用意した場合には、各地域に対して複数のバナー広告を対応付けし、同時に複数のバナー広告を表示することもできる。

#### 【0033】[2] 地図情報提供動作

次に、地図情報提供動作について、図1乃至6を参照して説明する。図2は、地図情報の提供動作を示すフローチャートであり、図5及び図6は、各段階における地図表示画面の例である。以下、ユーザ端末1のユーザが地図情報提供サイトに接続して、地図情報を取得する場合を例にとって説明する。

【0034】まず、ユーザは端末1のWWWブラウザを使用して、地図情報提供サイトのURLを指定する（ステップS2）。URLとは、WWW上の特定のリンク先を指定するアドレス情報である。これにより、端末1は、インターネット5を介して地図情報提供サイト20のWWWサーバ22に接続する。

【0035】これに回答し、WWWサーバ22は地図情報提供サイトのホームページのHTML（Hypertext Markup Language）テキストを端末1に送る。HTMLテキストとは、HTMLと呼ばれる言語で記述されたテキストファイルであり、関連付けされた画像情報、音声情報などの保存先の情報を含めることができる。端末1のWWWブラウザは、このHTMLテキストを受信し、端末1上に表示する（ステップS4）。

【0036】図5に、こうして表示される当該ホームページの初期画面の例を示す。図5において、表示画面の中央には地図表示部30があり、そこに地図画像データが表示される。地図表示部30の上にはバナー広告表示部40がある。なお、初期画面においては、ユーザによる地図情報の指定が行われていないので、バナー広告表示部40内には特定の地域と関連付けのなされていないバナー広告、または広告以外のメッセージなどを表示することとする。

【0037】地図表示部30の直ぐ下には、縮尺指定部32があり、これが地図表示部30内に表示されている地図の縮尺（スケール）を示している。縮尺指定部32内の各ボタン（この例では11段階）は異なる縮尺に対応している。図5の例では、最も大きい（左側の日本地図マークに近い）縮尺で地図の表示がなされている。表示された地図画像を拡大したい場合には、縮尺指定部32中の右寄り（“street”に近い）のボタンをクリックすると、縮尺の小さい地図画像が表示される。

【0038】縮尺指定部32の左側には、スクロール部34が表示される。スクロール部34は、現在表示されている地図の周辺部を表示したい場合に使用され、現在の表示位置を中心として8方向へ向けた矢印が表示されている。例えば、ユーザがスクロール部34内の上向きの矢印をクリックすると、現在表示されている場所の直ぐ北に位置する周辺部の地図が表示される。即ち、クリックされた位置が表示画像の中心となるように地図情報の表示が変更される。

【0039】縮尺指定部32の下には、検索したい場所を指定又は入力するための入力欄36が表示される。入力欄36の左側には、「住所一覧」、「駅一覧」及び「ランドマーク一覧」のボタンが表示されており、これらをクリックすることにより住所、駅名、ランドマーク名の候補一覧が表示される、ユーザはそれらの中から所望の候補を選択することによりその場所の地図画像を表示させることができる。また、入力欄36の右側には住所、駅名、ランドマーク名の入力ボックスが表示され、ユーザは所望の住所、駅名などをキーボードを使用して直接入力することができる。例えば、ユーザが入力欄36の駅名入力ボックス内に「蒲田駅」と入力すると、図6に示すように蒲田駅を中心とする地図画像が地図表示部30内に表示される。なお、入力欄36の右側には種々の特殊機能ボタンが表示されている。

【0040】図5のように地図情報提供サイトのホームページが表示された状態で、ユーザは表示させたい目的地を指定、入力する。この指定は、入力欄36の左側の一覧から候補を指定することにより行っても良く、入力ボックス内に、駅名、住所などを直接タイプ入力して行ってもよい。こうして指定された目的地情報は、端末1からインターネット5を介してWWWサーバ22へ送られる（ステップS6）。これと同時に、現在選択されている縮尺情報もWWWサーバ22へ送られる。

【0041】WWWサーバ22は、この情報を受け取り、ランドマークデータベース24を参照して当該目的地に対応する位置情報（座標情報）を取得する。また、取得した位置情報に基づき、地域ファイルデータベース28を参照して当該位置情報に対応する地域ファイルを特定する。次にバナーデータベース26を参照して当該地域ファイルに対応するバナー広告を特定する。

【0042】今、ユーザが入力欄36に「蒲田駅」と入力して蒲田駅周辺の地図情報を検索すると、WWWサーバ22は蒲田駅の位置情報を取得し、これに基づいて地域ファイルデータベース28を参照して地域ファイル「蒲田」を特定する。ここで、現在の位置情報が地域ファイルデータベース28中の複数のレベルの地域ファイルに属する場合、レベルの最も低い（レベル数の大きい）地域に対応する広告を、表示すべきバナー広告として決定する。この例では、指定された位置情報は蒲田駅のものであり、図3に示す「関東」、「東京」、「大田

区」、「蒲田」の全ての地域ファイルに対応することになる。この場合、WWWサーバ22は、レベルの最も低い地域ファイル「蒲田」を現在の地域として決定する。この処理により、指定された位置情報が複数の地域ファイルに対応する場合、最も小さい区分について用意されたバナー広告が優先して表示されることになる。ユーザが蒲田駅を指定して地図情報を検索した場合、同時に表示されるバナー情報としては、大田区全体や東京都全体に関する広告よりも蒲田駅に関連する広告の方が好ましい。従って、位置情報が複数の地域に属する場合には、レベルの最も低い地域の広告情報を優先的に表示するように構成する。

【0043】これに対して、例えばユーザが大田区内の他の場所（例えば住宅街など）を指定した場合、その位置情報は「関東」、「東京」、「大田区」の各地域ファイルに対応するが、レベル4には対応する地域ファイルが存在しないことがある。このような場合、WWWサーバ22は前述のように低いレベルから順に対応する地域ファイルを特定する、よって、WWWサーバ22は地域ファイルデータベース28を参照して地域ファイル「大田区」を特定し、さらにバナーデータベース26を参照してこれに対応する広告Cを決定する。

【0044】また、ユーザが入力欄を使用して「大田区」、「東京都」などと指定した場合には、それぞれ対応するレベルの地域ファイルが特定され、それと関連付けられた広告C、広告Bが表示されることになる。

【0045】さて、蒲田駅の例に戻ると、WWWサーバ22は次にバナーデータベース26を参照して、地域ファイル「蒲田」に対応する広告Dを決定する。そして、WWWサーバ22は、上記位置情報及び広告Dを示すバナー広告指定情報を含むHTMLテキストを作成して端末1へ送信する（ステップS8）。このHTMLテキストには、さらにそれを受け取った端末1がアクセスすべきサーバ名（即ち、地図サーバ12）、現在選択されている縮尺に応じて選択される地域ファイル名、端末1上に表示すべき文、バナーデータベース26から呼び出すべきバナー広告指定情報などが含まれている。

【0046】端末1のWWWブラウザは、このHTMLテキストを受け取り、それに含まれる文を表示する。また、当該HTMLテキスト中に記述された地図サーバ12へ地域ファイル名、位置情報、サイズ情報、縮尺情報などの情報を送る（ステップS10）。地図サーバ12は、地図データベース14にアクセスし、縮尺情報及び位置情報により特定される地域ファイルの画像データのうち、位置情報を中心とし、サイズ情報により決定される範囲に対応する画像データを取得し、これを地図画像データ（GIFデータ）として端末1へ送信する。

【0047】また、端末1のWWWブラウザは同時にバナーデータベース26にアクセスし、HTMLテキスト中に記述されたバナー広告指定情報に対応するバナー広

告画像データを取得してユーザ端末に送る（ステップS12）。

【0048】端末1は、地図サーバ12から送信された地図画像データを、先にWWWサーバ22から送信されたHTMLテキストで指定された表示個所に表示する。また、同時に、バナーデータベース26から送信されたバナー広告画像データを図6に示すようにバナー広告表示部40内に表示する（ステップS14）。こうして、ユーザが指定した目的地の地図画像データが端末1の地図表示部30内に表示され、その地域に関連するバナー広告がバナー広告表示部40内に表示される。

【0049】なお、ユーザの入力欄36への再指定、再入力により目的地が変更された場合は、ステップS6乃至S14の処理を変更後の位置情報などに基づいて繰返して地図及びバナー広告表示の更新を行う。

【0050】また、地図画像が表示された状態で、縮尺の変更、表示位置の変更などがあった場合も、処理はステップS6へ戻り、変更後の位置情報、縮尺情報などをWWWサーバ22へ送信する。以後、WWWサーバ22、地図サーバ12及び端末1は変更後の情報に基づいて同様の処理を行い、地図及びバナー広告表示の変更を行う。

【0051】例えば、ユーザが縮尺指定部32を操作することにより縮尺情報が変更された場合は、地図サーバ12がアクセスすべき地図ファイルが変更されるか、あるいは同一の地図ファイルのうち端末1へ送信される地図画像データの範囲が変更される。一方、ユーザが地図表示部30内に表示された地図上で関心のある場所をクリックすると、その場所の位置情報が送信され、地図サーバ12はその場所を中心とする地図画像データを端末1に送信する。その結果、地図表示部30内の地図は、ユーザがクリックした場所を中心とする表示に変更される。

【0052】また、こうして位置情報が変更された場合、WWWサーバ22は地域ファイルデータベース28を参照し、その位置情報の変更が地域ファイルの変更を伴うか否かを判断する。地域ファイルの変更を伴う場合には、バナーデータベース26を参照し、変更後の地域ファイルに対応するバナー広告指定情報を取得する。あとは、ステップS12及びS14に従って変更後のバナー広告指定情報を端末1に送信し、バナーデータベース26からバナー広告画像データを取得してバナー広告表示部40内に表示する。

【0053】なお、前述の説明において、地図サーバ12は地図ファイルをそのファイル名によって直接指定するようにしたが、地図サーバ12の地図ファイルは独自の管理体系に従って構築されるようにしてもよい。その場合には、地図ファイル名を直接指定するのに代えて、WWWサーバとサーバ上で動くプログラムとのインターフェースを果たすCGI（Common Gateway Interface）

を利用して地図ファイルをアクセスする。例えば、ステップS10では、地図サーバ12に対して地図表示用CGI名を送るようにする。

【0054】以上説明したように、本発明によれば、地図情報提供サービスにおいて、ユーザが自ら指定して検索した場所の地図情報に加え、その場所に関連するバナー広告情報が表示される。従って、ユーザは、現在関心のある場所と関連のある広告情報を自動的に得ることができる。また、広告主としても、より関心のあるユーザに対して広告を提供することができるので、宣伝広告効果が高まることが期待できる。

【0055】

【発明の効果】以上説明したように、請求項1及び6に記載の発明によれば、当該地図情報提供システムを使用してユーザが所望の地図情報を端末上に表示させると、表示された地域に関連する広告情報が自動的に表示される。従って、ユーザが関心のある地域と関連する広告を提供することができ、宣伝効果が高まることが期待できる。

【0056】請求項2に記載の発明によれば、データベース内のデータ記憶構成が単純化され、アクセスが迅速化される。

【0057】請求項3に記載の発明によれば、ユーザが選択した地域の広さに応じて適切な広告情報を提供することができる。

【0058】請求項4及び7に記載の発明によれば、ユーザは検索した地図情報と同時に同一画面上で関連する広告情報を見ることができる。

【0059】請求項5に記載の発明によれば、各地域ごとに有効な宣伝広告を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態にかかる電子メールシステムの概略的構成を示すブロック部である。

【図2】地域ファイル内の記憶データ例を示す図である。

【図3】バナーデータベース内の記憶データ例を示す図である。

【図4】地図情報の提供動作を示すフローチャートである。

【図5】地図情報提供サイトの表示画面の例を示す図である。

【図6】地図情報提供サイトの表示画面の他の例を示す図である。

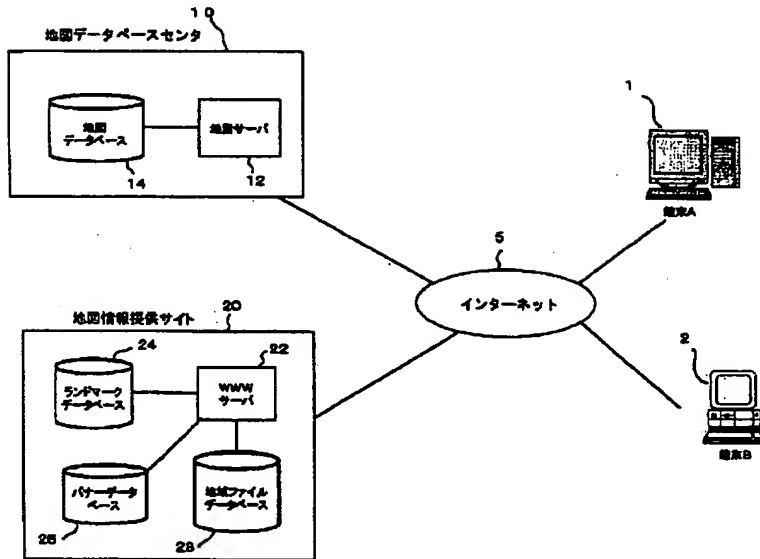
【符号の説明】

- 1…端末
- 5…インターネット
- 10…地図データベースセンタ
- 12…地図サーバ
- 14…地図データベース
- 20…地図情報提供サイト

22…WWWサーバ  
 24…ランドマークデータベース  
 26…バナーデータベース  
 28…地域ファイルデータベース  
 30…地図表示部

32…縮尺指定部  
 34…スクロール部  
 36…入力欄  
 40…バナー広告表示部

【図1】



【図3】

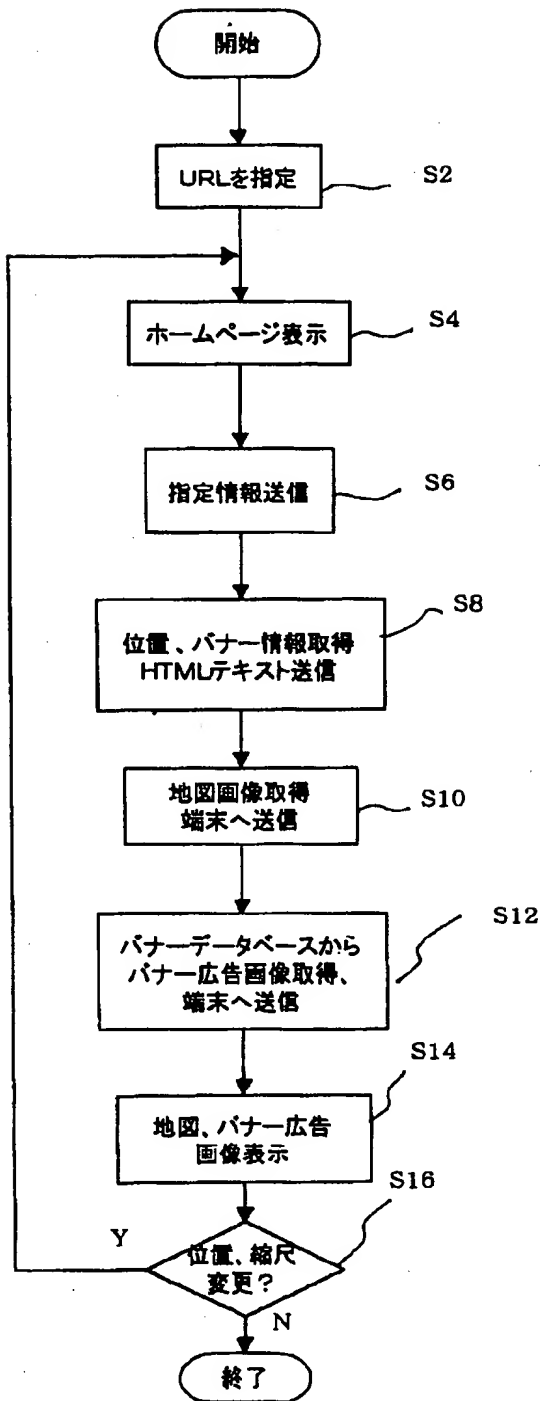
レベル	地域ファイル	位置情報
1	関東	北緯〇〇-〇〇度、東経〇〇-〇〇度
2	東京	北緯〇〇-〇〇度、東経〇〇-〇〇度
3	大田区	北緯〇〇-〇〇度、東経〇〇-〇〇度
4	蒲田	北緯〇〇度、東経〇〇度から半径△km以内

【図4】

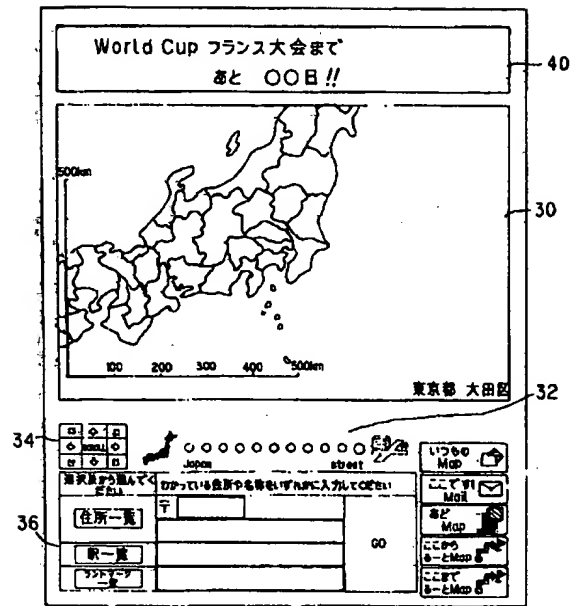
レベル	地域ファイル	バナー広告
1	関東	広告A
2	東京	広告B
3	大田区	広告C
4	蒲田	広告D



【図2】



【図5】



【図6】

